

ワールドスリープ 2011

報告書

ワールドスリープ 2011

組織委員会

I. 会議の目的と日本開催に至る経緯

Worldsleep2011（世界睡眠学会 京都大会）は、世界睡眠連合（World Sleep Federation）が4年ごとに開催する会議であり、1991年の第1回から当会議で6回を数える国際会議である。世界睡眠連合の構成学会の1つであるアジア睡眠学会の会員数は約3500人であり、アメリカに次ぐ世界第2位の会員数を有するが、この国際会議は日本だけでなくアジアでの開催も経験を持たなかった。

そこでこの度、2007年9月にオーストラリア（ケアンズ）で行われたWorld Sleep Federation（WSF）のCouncil Meetingにて、アジア睡眠学会の中核メンバーである日本睡眠学会を中心に2011年のワールドスリープ2011を日本で開催することが決定され、2008年5月24日、組織委員会を設立して開催の準備を開始した。

II. 会議の概要について

ワールドスリープ2011は、世界睡眠連合、日本睡眠学会、日本学術会議が主催し、厚生労働省、京都府、京都市の後援により、平成23年10月16日（日）～10月20日（木）の5日間、国立京都国際会館において開催された。

(1) 会議の日程

月日	午前	午後	夜
10月16日（日）	全体会議	全体会議、開会式	ウェルカムレセプション
10月17日（月）	全体会議	全体会議、ポスター発表	
10月18日（火）	全体会議		
10月19日（水）	全体会議	全体会議、ポスター発表	コンgresディナー
10月20日（木）	全体会議	全体会議、閉会式	

※10月15日（土）～20日（木）：日本睡眠学会第36回定期学術集会在併催

※10月21日（金）：京都会館にて市民公開講座が開催

(2) 主な議題

”地球における睡眠研究の新たな地平“をメインテーマに掲げ、グローバル化しつつある世界の中で、当会議は世界睡眠学会連合が新たな時代を築く一つの礎となり、人類が昼と夜とに直面する課題の解決を目指した議論が行われた。

睡眠障害、ナルコレプシー、不眠症、睡眠呼吸障害、睡眠のメカニズム、睡眠生理・薬理学、うつ病と睡眠、睡眠サイクル、神経薬理学などに加え、災害医療における睡眠、サマータイム制度、小児の睡眠不足、医師の過重労働、生活習慣病と睡眠の関係などの幅広いテーマについて研究発表と討論が行われた。

(3) 会議の構成

開会式、全体会議（プレジデンシャルレクチャー、オープニングレクチャー、プレナリーレクチャー、プレナリーシンポジウム、エジュケーショナルレクチャー、エジュケーショナルシンポジウム、アブストラクトシンポジウム、インダストリアルシンポジウム、ランチョンセミナー、World Sleep Federation シンポジウム）、ポスター発表、閉会式、市民公開講座

（セッション数）

プレジデンシャルレクチャー	1	オープニングレクチャー	2
プレナリーレクチャー	13	プレナリーシンポジウム	15
エジュケーショナルレクチャー	7	エジュケーショナルシンポジウム	5
アブストラクトシンポジウム	33	インダストリアルシンポジウム	7
ランチョンセミナー	18	World Sleep Federation シンポジウム	6

全107セッション

Ⅲ. 会議の出席者について

会議出席者数および参加国：36ヶ国

カテゴリー	事前	当日	合計
Regular	1,609	675	2,284
Student/Trainee	245	51	296
Accompanying Person	24	13	37
総計	1,878	739	2,617

国名	合計
Japan	1,961
Australia	82
Belgium	3
Brazil	7
Canada	29
Chile	1
China	79
Denmark	1
Finland	21
France	59
Germany	32
Iceland	5
India	17
Indonesia	2
Iran	1
Ireland	3
Italy	1
Mexico	2
Monaco	1
Netherlands	10
New Zealand	15
Norway	7
Poland	3
Republic of Korea	38
Romania	1
Singapore	13
Spain	3
Sweden	9
Switzerland	14
Taiwan, R. O. C.	24
Thailand	7
Turkey	6
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	31
United States of America	127
Uruguay	1
Viet Nam	1
総計	2,617

IV. 会議の成果について

(1) 会議開催の意義・成果

眠りの量と質は、日常生活や健康に大きな影響を与える。遺伝子レベルの解析から臨床的な知見や社会的な検討まで、世界 36 カ国・地域から多様な領域の研究者が一堂に会して、睡眠と健康の問題を考える機会となった。

睡眠学は、睡眠科学、睡眠医学、睡眠社会学を 3 本柱とする総合科学である。「睡眠の問題を核として、その周囲に精神疾患や生活習慣病がある」ということは、睡眠の専門家の共通認識であり、睡眠の重要性が徐々に知られてきたもののまだ不十分である。世界的にも睡眠の問題をこれから見直そうという機運があり、当会議を機に睡眠の重要性を広く発信した。

世界睡眠学会第 1 回の開催から 20 年目にあたる 2011 年に日本で世界睡眠学会京都大会を開催することはきわめて意義深く、アジア、広くは世界の睡眠学会に大きなインパクトを与えた。最新の睡眠研究の成果を受けて、多様な社会問題についても議論され、睡眠医療の普及と睡眠学の発展を目指す大きなきっかけとなった。

(2) 日本が果たした役割

「睡眠の問題を核として、その周囲に精神疾患や生活習慣病がある」ということは、睡眠の専門家の共通認識であり、世界的にも睡眠の問題をこれから見直そうという機運がある。

わが国の平均睡眠時間は 40 年間で 1 時間近く短縮し、先進諸国の中でも最短である。アジアでは近年経済成長が目覚ましいが、同時に人々に睡眠の問題を引き起こしている。アジアは欧米と完全に同じではなく、独自の睡眠研究を必要としていることが示された。

本学会において、世界保健機構 (WHO) との合同シンポジウムを開催された。睡眠問題は世界規模の健康/社会問題であること、世界中の学会や専門組織が共同で取り組むべき課題であること、睡眠障害とメンタルヘルスは双方向的に影響し合うことがあきらかとなり、WHO は睡眠医学の分野で学会との協力を惜しまないと述べられた。

世界睡眠学会連合の 3 つの専門部会 (不眠症、睡眠呼吸障害、遺伝) のシンポジウムが初めて開催され、これらの分野で国際共同研究の枠組みを作成することが決定した。

我が国の睡眠の分野の特に若手研究者が世界の多くの睡眠研究者と直接交流する機会を与えることとなり、我が国の睡眠研究を一層発展させる契機となった。

(3) 次回会議への動き

本学会期間中に開催された世界睡眠連合の理事会において、次回の会議は 2015 年に欧州で開催されることが決定した。

(4) 当会議開催中の模様

開会式は英語、日本語、中国語、韓国語の同時通訳で行われ、アトラクションとして、眠りと夢を題材とした装束付舞囃子 (能) 『邯鄲』が演じられた。会期中は世界 36 カ国・地域、2,617 人の睡眠の研究者が集まり、729 のポスター発表、480 の口演による活発な討議が行われた。コンGRES パーティーでは睡眠をテーマとしたファッションショーが行われ、科学と芸術の融合が図られた。

(5) その他

ワールドスリープ 2011 はカナダと招致競争となった。前回の worldsleep07 (5th International Congress of the WFSRSMS) において、本大会招致のために京都市観光ビューローと共に広報活動を行った。その後、米国睡眠学会などの関連する国際会議などにおいてもプロモーションを行ってきた。

東日本大震災を受けて開催を危ぶむ声もあったが、国内ならびに世界睡眠学会連合、米国睡眠医学会、豪州睡眠学会など海外関連学会よりサポートを得て予定通り開催し、成功裏に終了することができた。世界睡眠学会参加者からも日本の復興への思いが重なった。

開会式において、日本学術会議春日文子副会長よりご挨拶を賜るとともに、内閣総理大臣のメッセージを頂くことができた。このような機会をいただいた日本学術会議に大きな謝意を表するとともに、多大なる御支援をいただいた内閣府、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市をはじめ、諸機関、諸団体の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

IV. 市民公開講座開催概要

(1) 開催日時

2011 年 10 月 21 日 (金) 18:00-20:00

(2) 開催場所

京都会館第二ホール

(3) 主なテーマ

『アンドロイドは電気羊の夢を見るか？—宇宙での睡眠を考える』

(4) 参加者数

一般市民 230 名

(5) 開催の意義

日本は国際宇宙ステーションに実験室を持つアジアで唯一の国である。ワールドスリープ 2011 の開催中、古川宇宙飛行士が日本の宇宙実験室「きぼう」に長期滞在して、日本で開発された携帯型脳波計を用いて、無重力環境での睡眠を自己判定する実験を世界で初めて行った。この機会を利用して、宇宙での睡眠の経験のある宇宙飛行士 3 名と、過剰なストレス条件下での作業を経験している宇宙エンジニア 1 名、宇宙での睡眠やバイオリズムの専門家 2 名を招いて公開講座を開催した。

(6) 社会に対する還元効果とその成果

宇宙空間での人間の眠りや夢は国民の高い関心を集め、快適で健康な生活のための睡眠の重要性を国民に再認識させた。極限環境で働く労働者の快適な睡眠を確保する方法の開発は、東北大震災後の日本にとって極めて重要な研究課題である。宇宙ステーションでの実験用に開発された携帯型脳波計は、単一電極による脳波測定を行う世界最小レベルの装置であり、装着も容易で不快感も少なく、簡単かつ日常的に睡眠を長期間にわたり計測できる。本公開講座を通して、国民の睡眠に対する関心が高まり、脳波に基く睡眠の自己診断が普及すれば、睡眠環境の改善、交通事故の防止、メンタルヘルスケアの良質化などに利用され、国民の Quality of Life が大きく改善される。

V. 予算および決算について

(1) 予算

ワールドスリープ 2011 として、当初予算 212,553,377 円を計上した。この内訳は、参加費 101,550,000 円、懇親会費 1,500,000 円、特別スポンサー 33,600,000 円、スポンサードセミナー共催金 24,150,000 円、企業展示出展料 12,757,500 円、広告掲載料 1,428,000 円、寄付金（国費含む）35,000,000 円、その他（繰越金）2,567,877 円とし、運営委員会はこの予算について経理を行った。

(2) 収入支出の決算（国費は別会計）

1) 収入の内訳

単位：円

科 目	予算額	決算額	収入増△減額	備 考
参 加 登 録 費	103,050,000	66,037,412	△37,012,588	
特 別 ス ポ ン サ ー	33,600,000	66,328,000	32,728,000	
スポンサードセミナー共催金	24,150,000	25,493,981	1,343,981	
企 業 展 示 出 展 料	12,757,500	19,317,500	6,560,000	
広 告 掲 載 料	1,428,000	987,000	△441,000	
寄 付 金 ・ 補 助 金	37,567,877	22,982,127	△14,585,750	
利 息	0	18,275	18,275	
合 計	212,553,377	201,164,295	△11,389,082	

2) 支出の内訳

単位：円

科 目	予算額	決算額	支出増△減額	備 考
I 会議準備費	69,811,810	52,393,704	△17,418,106	
1 人件費	9,720,000	5,700,000	△4,020,000	
2 旅費	6,720,000	6,584,010	△135,990	
3 庁費	53,371,810	40,109,694	△13,262,116	
(1) 委員会経費	4,450,000	1,160,579	△3,289,421	
(2) 広報	1,568,110	2,988,110	1,420,000	
(3) Web・登録システム	9,895,000	8,627,454	△1,267,546	
(4) 消耗品費	850,000	150,000	△700,000	
(5) 通信運搬費	4,920,000	1,527,551	△3,392,449	
(6) 企画制作費	26,002,000	22,656,000	△3,346,000	
(7) その他	5,686,700	3,000,000	△2,686,700	
II 会議運営費	122,430,863	131,692,631	9,261,768	
1 人件費	15,634,000	14,332,000	△1,302,000	
2 旅費	22,694,000	44,294,901	21,600,901	
3 庁費	84,102,863	73,065,730	△11,037,133	
(1) 関係者昼食費	900,000	834,921	△65,079	
(2) 会議用備品費	850,000	1,276,000	426,000	
(3) 料飲	9,510,000	1,236,336	△8,273,664	
(4) 会場費	20,556,475	14,705,050	△5,851,425	
(5) 機材・音響機材費	22,366,200	19,249,650	△3,116,550	
(6) 設備使用料	705,000	1,252,841	547,841	
(7) 備品・設営費	2,418,200	2,468,660	50,460	
(8) 展示・造作費	7,400,000	7,310,650	△89,350	
(9) 関連行事費	10,330,000	17,731,622	7,401,622	
(10) その他	9,066,988	7,000,000	△2,066,988	
III 会議事後処理費	4,305,200	7,370,018	3,064,818	
1 人件費	880,000	700,000	△180,000	
2 旅費	90,000	30,000	△60,000	
3 庁費	3,335,200	6,640,018	3,304,818	
(1) 備品・消耗品費	250,000	20,000	△230,000	
(2) 印刷製本費	900,000	4,924,619	4,024,619	

(3) 通信運搬費	502,000	240,000	△262,000	
(4) 会議費	500,000	895,399	395,399	
(5) その他	1,183,200	560,000	623,200	
IV 募金経費	6,052,600	2,604,025	△3,448,575	
1 人件費	770,000	1,160,000	390,000	
2 旅費	1,575,000	0	△1,575,000	
3 庁費	3,707,600	1,444,025	△2,263,575	
(1) 備品・消耗品費	450,000	44,000	△406,000	
(2) 印刷製本費	180,000	862,000	682,000	
(3) 通信運搬費	66,000	22,430	△43,570	
(4) 会議費	1,800,000	0	△1,800,000	
(5) その他	1,211,600	515,595	△696,005	
V その他（消費税）	7,476,344	7,103,917	△372,427	
合 計	210,076,377	201,164,295	△8,912,082	

※国費（10,436,340 円）は別会計

VI. その他

(1) 組織委員会名簿

- International Organizing Committee

Masako Okawa	World Sleep Federation
Naomi Rogers	Austrarian Sleep Association
Dieter Riemann	European Sleep Research Societies
Celyne Bastien	Canadian Sleep Society
Geraldo Lorenzo-Filhi	American Academy of Sleep Medicine
Joel Dimsdale	Sleep Research Society USA
Sergio Tufik	Federation of Latin American Sleep Societies
H. N. Mallick	Asian Sleep Research Society

- International Program Committee

Daniel Caridinali	World Sleep Federation
Cameron Van Den Heuvel	Austrarian Sleep Association
Claudio Bassetti	European Sleep Research Societies
Gilles Lavigne	Canadian Sleep Society
Mary Morrell	American Academy of Sleep Medicine
Chiara Cirelli	Sleep Research Society USA
Ricardo A Velluti	Federation of Latin American Sleep Societies
Ken-ichi Honma	Asian Sleep Research Society

-Local Organizing Committee

委員長	大川 匡子	滋賀医科大学睡眠学講座
副委員長	清水 徹男	秋田大学大学院医学研究科医学専攻 病態制御医学系精神科学講座
	Do-Un jeong	Korean Society of Sleep Medicine
	Ning-hung Chen	Taiwan Society of Sleep Medicine
事務局長	本間 研一	北海道大学医学研究科生理学講座
副事務局長	大井田 隆	日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野
委員	塩見 利明	愛知医科大学医学部睡眠科
	宮崎 総一郎	滋賀医科大学睡眠学講座
	平田 幸一	獨協医科大学神経内科
	H. N. Mallick	Indian Society for Sleep Research
	Naiphinich Kotchabhakdi	Thai Society for Sleep Research

- Local Program Committee

委員長	本間 研一	北海道大学医学研究科生理学講座
-----	-------	-----------------

副委員長	裏出 良博	大阪バイオサイエンス研究所 第2研究部分子行動生物学部門
	内山 真	日本大学医学部精神医学系
委員	H. N. Mallick	Indian Society for Sleep Research
	堀 忠雄	福山通運渋谷長寿健康財団睡眠研究所
	小林 敏孝	足利工業大学システム情報工学科
	本多 和樹	ハムリー株式会社筑波研究センター 睡眠科学研究所
	神山 潤	東京ベイ・浦安市川医療センター
	井上 雄一	神経研究所附属睡眠学センター 代々木睡眠クリニック /東京医科大学睡眠学講座
	赤柴 恒人	日本大学医学部睡眠学・呼吸器内科分野
	三島 和夫	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所精神生理研究部
	角谷 寛	京都大学大学院医学研究科附属 ゲノム医学センター疾患ゲノム疫学解析分野

- Active Financial Committee

委員長	内山 真	日本大学医学部精神医学系
副委員長	平田 幸一	獨協医科大学神経内科
	山田 尚登	滋賀医科大学精神医学講座
委員	清水 徹男	秋田大学大学院医学研究科医学専攻 病態制御医学系精神科学講座
	内村 直尚	久留米大学医学部神経精神医学講座
	井上 雄一	神経研究所附属睡眠学センター 代々木睡眠クリニック /東京医科大学睡眠学講座
	赤柴 恒人	日本大学医学部睡眠学・呼吸器内科分野
	大塚 邦明	東京女子医科大学東医療センター内科
	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学教室

- Active Publicity Committee

委員長	粥川 裕平	国立大学法人名古屋工業大学保健センター
委員	白川 修一郎	国立精神・神経センター精神保健研究所
	千葉 茂	旭川医科大学医学部精神医学講座
	野沢 胤美	虎の門病院神経内科臨床生理検査部

	福田 一彦	江戸川大学社会学部人間心理学科
	田ヶ谷 浩邦	北里大学医療衛生学部健康科学科精神衛生学
- Active Liaison Committee		
委員長	小林 敏孝	足利工業大学システム情報工学科
委員	本多 和樹	ハムリー株式会社筑波研究センター 睡眠科学研究所
	杉田 義郎	大阪大学大学院医学系研究科 予防環境医学専攻精神健康医学
	三島 和夫	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所精神生理研究部
- Active Registration Committee		
委員長	宮崎 総一郎	滋賀医科大学睡眠学講座
副委員長	駒田 一朗	社会保険滋賀病院耳鼻咽喉科
委員	千葉 伸太郎	太田総合病院記念研究所附属診療所 太田睡眠科学センター
	鈴木 雅明	帝京大学医学部耳鼻咽喉科学教室
	今井 眞	滋賀医科大学精神医学講座
- Active Congress Committee		
委員長	角谷 寛	京都大学大学院医学研究科付属 ゲノム医学センター疾患ゲノム疫学解析分野
委員	裏出 良博	大阪バイオサイエンス研究所 第2研究部分子行動生物学部門
	山田 尚登	滋賀医科大学精神医学講座
	駒田 一朗	社会保険滋賀病院耳鼻咽喉科
	大川 匡子	滋賀医科大学睡眠学講座
	菊池 哲	医療法人社団秋桜会コスモス矯正歯科医院
	末永 和栄	医療法人社団青山会青木病院検査課
	加根村 隆	滋賀医科大学睡眠学講座
	八木 朝子	愛仁会太田総合病院記念研究所附属診療所 太田睡眠科学センター
	木村 弘	奈良県立医科大学内科学第二講座

※所属は2010年7月時点

(2) 開会式

日 時 2011 年 10 月 16 日 (日)

会 場 国立京都国際会館メインホール

式次第 開会の辞

日本睡眠学会理事長 清水 徹男

主催者挨拶

Worldsleep2011 組織委員長 大川 匡子

日本学術会議副会長 春日 文子

世界睡眠連合会長 Ron Grunstein

来賓祝辞

京都府知事 山田啓二

京都市長 門川 大作

内閣府総合科学技術会議事務局参事官 (ライフイノベーション担当) /

前 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官

田中 一成

厚生労働省障害保健福祉部精神・障害保健課 課長 福田 裕典

内閣総理大臣メッセージ

Opening Lecture

『Evolution of life history strategy in human and non-human primates』

京都大学大学院理学研究科 人類進化論研究室 教授 山極 壽一

座長: Worldsleep2011 組織委員長 大川 匡子

アトラクション

〔装束付舞囃子〕 一能『邯鄲』より一

(曲名) 邯鄲

シテ・廬生: 河村晴道

笛: 森田保美

小鼓: 吉阪一郎

大鼓: 石井保彦

太鼓: 前川光範

地謡: 味方 團, 宮本茂樹, 河村和貴

閉会の辞

Worldsleep2011 渉外委員長 小林 敏孝

内閣総理大臣メッセージ

ワールドスリープ 2011

大会長 大川 匡子 殿

「ワールドスリープ 2011」が京都において開催されるにあたり、世界各国からの参加者の皆様に
対し心から歓迎を申し上げます。また、今回の東日本大震災に際して、海外の皆様からいただいた
御支援と御協力に心から感謝申し上げますとともに、復興のために全力で取り組んでまいる所存です。
この度の国際会議が、日本学術会議及び日本睡眠学会の共同主催の下に開催されることは意義深い
ものと考えております。この会議が、睡眠学の発展に貢献し、多大な成果を収められることを心よ
り祈念いたします。

内閣総理大臣 野田 佳彦

Japan Medical Society : 2011 年 12 月号

世界難民学会の開会式で開会を宣言する清水徹男・日本難民学会理事長＝10月16日、国立京都国際会館

A photograph showing four individuals seated on a stage for a panel discussion. From left to right: a man in a dark suit and tie, a man in a dark suit and tie, a woman in a grey suit, and a woman in a dark suit. They are all looking towards the right side of the frame. The background is a simple, light-colored wall.

左からロン・グルンSTEIN・世界翻訳連合会長、清水啓男・日本翻訳学会
理事長、春日文子・日本学術会議副会長、大川富子・総務委員長



サマータイム制のリズム障害への悪影響を指摘する土川環子・滋賀医科大学助任教授

合同シンポジウム「サマータイムを考える」
を司会する水野田一・北海道大学地域教育

A portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie, speaking into a microphone at a podium. He is gesturing with his right hand.

住宅内の熱中症を報告する松原直樹・京都府立大学教授



住宅の室内熱環境を解説する嵯越哲美、名古屋工業大学教授

教授（生化学・環境工学）は「最近では熱中症が発生している。もはや休息の場所が安全な快適空間ではない。お年寄りを我僕にしてしまふ。サマータイムで寝る時刻が早まれば、それだけ気温が高まり、眠りにくい。熱帯夜が増える日本で、サマータイムは疑問」と断じた。

サマータイム制の提案は今後すぐ浮上するだろう。睡眠学会と生気象学会が交流した合同シンポジウムは初めてで、今後の協議にも影響しそうだ。

教授（生化学・環境工学）は「最近では熱中症が発生している。もはや休息の場所が安全な快適空間ではない。お年寄りを我僕にしてしまふ。サマータイムで寝る時刻が早まれば、それだけ気温が高まり、眠りにくい。熱帯夜が増える日本で、サマータイムは疑問」と断じた。

サマータイム制の提案は今後すぐ浮上するだろう。睡眠学会と生気象学会が交流した合同シンポジウムは初めてで、今後の協議にも影響しそうだ。



美しい中庭から見た国立京都国際会館。過去にも数々の重要な国際会議や学会が開かれた

3月11日に日本は東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に見舞われた。

[illegible]

A wide-angle photograph of the Worldsleep 2011 conference stage. A large central screen displays a close-up of a man in a suit speaking into a microphone. Above the screen, a red banner reads "Worldsleep 2011" and "New frontiers of sleep research on the Pacific Rim" with the date "October 16-18, 2011". To the left and right of the stage are white backdrops featuring the "Worldsleep 2011" logo and a stylized sun/moon graphic. Several people are seated on the stage in front of the screen. The foreground shows the silhouettes of the audience seated in a large hall.

国立京都市総合会館のメインホールで開かれた世界舞踊学会の開会式。あいさつするのは世界舞踊連合会のロン・グルンSTEIN会長

力需要という点に達する以上、一部企業は、
たが品時特化型あるいはフラクタル型を採
用し、春から秋にかけて設計の土着時間分
上けるマテリアル（製品）時間、導入機
時である。日本企業は「時間」を「サー
タイム度」にすると別業協会（委員長：本
田彰彦、北海道大学学長）を経て、順次
の展開を指示している。

合同カンパニー本部は、大規模な、大
臣からマテリアル本部が提案された。08年上
マテリアル制度法提出前に行った時は「時
暖化対策が目立たない」。04年から06年に机を
中心に主目的とするフタタイム制があられた
は、経済活性化の政策と時期が重なった。
導入の理由がある変更となるのは「サ
タイムの確保」に限らず、「リ」が先で、
根拠を導いて、効果も主張されない。一此
料した。睡眠問題としてある本企業経営者
「タイム管理」として一時発生する体内リ
の不透明、睡不足が労働環境の問題、健康
の高齢者、睡眠不足が障害者（0・1％への
影響）の集合的責任、やがて増えるなど予
見。「サ」タイムの「リ」がマテリアル

をよく理解したいといっている。議論が先行
ている。国会等と立法が通ること心配
していると述べた。

精神疾患として睡眠薬に起因し組みこ

田村地区に医師不足が深刻化していることが、川原村最大の課題と見做され、保健所（保健科）と市立川原病院の両方に医師を派遣定員を確保することになった。その結果、昨年度に比べて、川原村科大の患者数は、男女性別を問わず、女性患者が約4割増加した。国患者の人数の減少は病院側から見て、30代、40代、50代、60代、70代、80代と年齢層が上るにつれて、入院患者や中絶手術、過剰産婦人科を足らざるに、明らかな減少傾向があること、日本の産婦人科医の30%以上は、国レベルでは、病院勤務ではなく、長期間勤務の産婦人科で生活が可能な人ほど多いこと、川村市では、病院勤務の産婦人科医は少ないこと、田村地区は、長時間勤務の改善が求められることと認識した。シシヅナで後継計画、長谷川教授は「上のようになりなさい」といふことと掛けた。保健科教授、医師の専門知識を有する、病院管理士、ディープラーニングのようになっている。病院管理



合置シンボジウム「生活習慣病と睡眠」の演者と

[illegible]

病院勤務医ほど睡眠不足

日中の過剰な眠気を感じていた。過去1ヵ月にメデikalインシデントを経験した人は19%にみられ、労働時間が長いほど、夜勤番直回数が増すほど、メデikalインシデントが多い傾向にあった。「医師の健康管理と医療安全確保の観点から、医師の労働と睡眠に十分に配慮することが必要だ」と提言した。

生活習慣病と睡眠の関係

者がオンコール態勢を勤務場と思っていた大きな間違い」と話し、准准教授は職業倫理や自己犠牲的な気持ちで仕事にでおり、対策が難しい」と答えた。医
働者である。その当たり前の原則に立
発想を転換していかないと、医師の道
なくならない。多くの医学会でこの問
上げれば、徐々に変わってくるだろう。

眠時間と関連があることを、角谷寛・京都大学

しい潮流を感じさせた。日本高血圧学会の「生活習慣病と睡眠」と題する合同シンポジウムが開かれた。1日7時間台の睡眠時間を底とする睡眠が短くても長くても、死亡率や生活習慣病発症率がU字型になる傾向があることは欧米で研究で指し示されている。睡眠時間が世界で最も短い日本では、欧米とは微妙に違うが、肥満

「医師の勤務態勢には外科系を中心に力を入れてきたが、『匠』として、ここが、平日在院日数が90年を越えながら、現在に至るまで一貫して変わらないうちの1週間から、現在の1週間に短くなり、読者の密度が高まって、仕事の量が増えた。病院の週長は役目も大々変わった。半休研修制で週長による一箇労働時間中の2時間のゼロ残業費負担や、若手を中心にユウライブ・プラス・フランスなど変化、保険業などの事務負担増や責任負担増などを契機に、一気に『匠』が現実化した」として、医療界・旧来の「匠」と女医の世界「匠」からず、「対が揺れいるにも関わらず」「システム」「社会」に転換したにも関わらず、組織にあまじく専門文化が衰えずです。役割分担



シンポジウム「医師の過重労働」を司会する大井田隆・日本大学助産師（女）と佐藤寛・旭川医科大学教授

睡眠短い医師はどうつ症状

[illegible]

学教授、保坂隆・聖路加国際病院医師、兼坂佳幸、日本大学准教授、田村之・旭川医科大学准教授

養板佳孝 日本大学医学部解剖学 公衆衛生学は「日本の医師・労働者の状況と日本の過剰な気、メイカルンシデット」(セマリハト)との関連について話した。養板教授は、大田教授とともに、88年に日本医事院会員邸で毎年日記式賞讃会を行った。33歳で卒任して、約4000人(回収率80%)を診察した。睡眠時間は、一般の人より短く、さらながら得た。睡眠時間は、33歳に1人、33歳に1人、睡眠による疲労が不足している。

每日新聞：2011 年 10 月 20 日



睡眠をテーマにしたドレスが登場したファッションショー―京都市で19日、川平愛撮影

「眠り」テーマに
ファッションショー

居エリが、発想を得た「ドレス・科学」が、制作した。作りで知られる松居さんには、作品が02年に英科学誌「ネイチャー」で紹介された。その記事を読んでスイスの国際動物学博物館生物学者が「睡服をテーマにしたドレスを作ってほしい」と懇望した。

ショールは、3000人を超え、る世界の研究者が集まり、異分野融合を生み出す美的な居エリに酔った。ショールは「ムルガッ・デス・バツツ」ファッション・デザイン・ウィーク 東京（日本・ファッション・ウィーク推進機構主催、毎日新聞社を協賛）の一環。

【永山悦子】

居エリさんが制作した。



護国研究について記念講演をする早石修、京大名誉教授

[illegible]

図鑑学の先達たちを囲む参加者たち。前列左から4人目が早石修・京都大学名誉教授

サイエンス研究所で睡眠研究を続けた。当時、プロスタグランジンは約4種があり、多様な生理活性が分かっていたが、脳では知られていなかった」と振り返った。早稲谷教授のグループは82年にラットや犬、人の脳にプロスタグランジンD2を発見した。それをラットの脳に投与注入すると、正常で自然な眠りを誘導した。

非常に驚いた。プロレスリング・ジャパンに敵対したことは種族ホロシムと言っている」と強調した。その合組または決定の理由も見つけ、体内リズムや受容体への役割を果たしていることを突き止めた。

16日朝には、早速生ききくの企業にも行われた。先主にきくく、の男も加して一生涯の前半の40年間、酸欠症と静脈系を研究したことが、30年間の睡眠研究はもとと、素知らぬものだった。皆々もいって、同じく睡いてもらいたい」と語り、リターダだった早稲名教授の身長、研究歴と年齢に、参加者は熱い拍手で応えた。

*
*

- * *
- * *
- * *

ジャーナリスト 小川 明

VII. 謝辞

下記の方々より賜りましたワールドスリープ 2011 への御支援と御協力に深く感謝の意を表します。

ActiGraph
AISIN SEIKI CO., LTD.
Akita Medical Association
Astellas Pharma Inc.
Brightlight Store
Cephalon, Inc.
CHEST M. I. Inc.
COSMO SOUND Co., Ltd. Tokai Office
DAIICHI SANKYO COMPANY LIMITED
Eisai Co., Ltd.
Fisher & Paykel Healthcare Limited
Fukuda Denshi Co., Ltd.
GE Healthcare Asia Pacific
Gunma University School of Medicine Alumni
Association
HSINER CO., LTD
HOMER ION
INTERVOICE, Inc.
ITC Ltd.
JANSSEN PHARMACEUTICAL K. K.
KINOKUNIYA COMPANY LTD.
KISSEI COMTEC CO., LTD.
Kitaoji Shobo Co., Ltd.
KOIKE MEDICAL CO., LTD.
Kyorin Pharmaceutical Co., Ltd.
LIFE SCIENCE CO., LTD.
Lion Corporation
LOTTE Health Products Co., Ltd.
Macros Japan Co., Ltd.
MAGnet co., ltd.
Medi-Sys Inc.
Meiji Seika Pharma Co., Ltd.
Merci Co., Ltd.
Merck & Co., Inc./MSD K. K.
Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation/
Alfresa Pharma Corporation
NIHON Kouden CORPORATION
Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd.
NoruPro Light Systems, Inc.
NTT DOCOMO, INC.
OMRON HEALTHCARE Co., Ltd.
OTSUKA PHARMACEUTICAL CO., LTD.
Pacific Medico Co., Ltd.
PARAMOUNT Bed CO., LTD.
Pegasus Wing Co., Ltd.
Pfizer Japan Inc.
Philips Respironics
Proassist, Ltd.

ResMed
RUSHRUN, Co., Ltd.
SANITA TRADING CO., LTD.
sanofi-aventis K. K.
Shinryobunco
SleepWell Co., Ltd.
SomnoMed
Sony Corporation
SSP CO., LTD.
SUPER HOTEL, Co., Ltd.
SUZUKEN CO., LTD./KENZMEDICO CO., LTD.
Takeda Pharmaceutical Company Limited
TANITA Corporation
TEIJIN HOME HEALTHCARE LIMITED
The Federation of Pharmaceutical
Manufacturers' Associations of JAPAN
TOSHIBA HOME APPLIANCES CORPORATION
VitalAire Japan K. K.
Weinmann Geräte für Medizin GmbH + Co.
Wiley-Blackwell

(in alphabetical order)